



# “北の鎌倉”、本来の意味

今回のお話は、1100年前に手賀海に接する我孫子は、**平将門の乱**に大きな関わりがあったこと、将門の本拠地が日秀周辺（湖北）に比定した等を明します。**戸田七支**さんは、これまでに欠けていた当地の地形分析を綿密におこない、地域史料及び関係各所を踏査、聞き取り調査を重ね、将門～頼朝の歴史の襞（ひだ）を解析し、我孫子から「かまくら道」が続いた理由を考察しました。

新木駅近くの「遺跡の公園」へ至る道に「かまくら道入口」の標識（教育委員会設置）があり、嘗て布佐駅の近くに、**頼朝の松**（写真右、教育委員会蔵）がありました。つまり、一度は敗走の**頼朝**が安房から上陸、**鎌倉殿**となる起死回生に繋がったのは、神通力を得た場所があったと考えられ、将門ゆかりの我孫子にも滞在した理由がみえてきます。鎌倉幕府を開く武将が布佐、新木を抜ける「かまくら道」で手を寄せたくなった所とは…。

我孫子が“北の鎌倉”と言われる本来の意味を解き明かしながら、皆様とゆるり談義します。

日時 **10月23日(日) 1時半～**

場所 久寺家 近隣センター 会議室

☆**先着 20人 スリッパ持参**

☆**資料・参加費：500円**

申込み/問合せ

我孫子カルチャー&トーク

TEL 080-1164-0145 (にいな)

かずゆき

## 戸田七支(郷土史家、布佐在住)

講師はネット取材を受けるなど、坂東の歴史の語り人として市内外で活躍する。我孫子の文化を守る会、市史研、将門プロジェクトに属し、独自の視点から千葉・我孫子研究を進めている。



**頼朝の松**（布佐、S.56年頃）/古代の**手賀海**



頼朝軍は、布佐、新木、湖北を抜け、そして  
**いざ鎌倉** へと向かった!?